福井農林総合事務所

志比北・鳴鹿山鹿地区のサル対策について

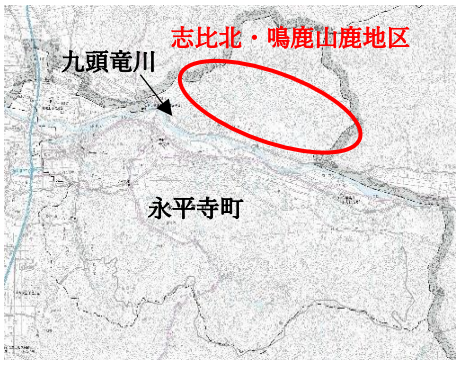
サルによる農作物被害に悩まされている永平寺町志比北・鳴鹿山鹿地区（８集落）において、地域住民主体でサルの行動調査を行い、ＳＮＳによりその結果を行政と近隣集落住民で情報共有するとともに、研修会によりサルの生態などの知識を習得し、追い払い等の対策を行った結果、住民のサルに対する意識の向上に寄与し、農作物被害の発生を未然に防止することに役立っている。

また、住民はサルによる被害は地域全体の問題としてとらえるようになり、地域と行政が一体となってサルの追い払い活動等を継続して実施していくことにつながっている。

地区の概要

地区名	永平寺町志比北・鳴鹿山鹿地区
戸　数	408 戸（うち農家 202 戸）
人　口	1,199 人
水田面積	86 ヘクタール
主な生産物	水稲、小麦
対策開始年度	平成 30 年度から

＊戸数、人口は R4 年 9 月現在の数値



永平寺町志比北・鳴鹿山鹿地区の地図

被害の状況と課題

集落に出没したサル

○平成 28 年頃から志比北・鳴鹿山鹿地区でサル群れ(10～20 頭)の目撃情報が入るようになり、徐々に家庭菜園の被害が増加してきた。

○サルの出没通報で、現場に町の職員が向かうが遭遇できないことも多々あり、遭遇してロケット花火などで追払いをしても一時的な効果しかなく、時間をおいて再びサルが出てくる状況であった。

○平成 29 年には、永平寺町と地区の住民とが協議して、箱わなでのサルの捕獲を試みたが、捕獲には至らなかった。

○サルの行動範囲を把握できていなかったことから、場当たり的な追払いをしていたため、サルの行動圏調査（テレメトリー調査）を行う必要があった。さらに調査結果を住民間などで情報共有をする必要もあった。

○サルの被害にあっている集落内の状況を把握できていなかったことから、集落点検を行い、住民間で情報共有を図る必要があった。

○サルの生態や被害対策などの知識や経験が不足しており、効果的なサル対策や捕獲ができていなかったことから、これらの知識を習得する必要があった。

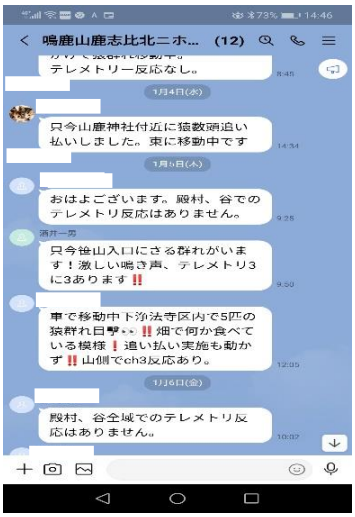
取組の内容

〇サルの行動圏調査

平成 30 年度、町はサルの行動圏調査の実施を決め、志比北・鳴鹿山鹿地区の代表や有害鳥獣対策関係者を集めて、地元説明会を実施し、サルの行動圏調査の方法を説明した。その後、サルを捕獲し発信機を装着して調査を開始した。その結果、隣接する勝山市から永平寺町の鳴鹿集落までが行動圏であり、サル群れは２群いることがわかった。

調査員によるテレメトリ調査の実践

令和元年度には、町が上記の結果を地元集落に説明したところ、住民自らテレメトリ調査を行うとの声があがった。そこで、令和２年度に、８集落を５ブロックに分け、ブロックごとに調査員を選出し、調査方法の研修を受け、調査をできる体制を整備した。また、結果を各調査員と町でグループラインを構築し、お互いにサル群れの出没情報を共有できるようにした。町は同じサル群れを共有している勝山市との連携を開始した。



SNS による情報共有

〇集落点検

令和元年度、集落内の状況を把握するために、各集落で住民参加型の集落点検を実施し、二番穂や放任果樹の場所などサルが好みそうな場所を把握した（４集落実施）。

また、点検結果について、住民間で情報共有を行った。

〇研修会の開催

令和２～３年度にかけて、地域住民を対象にサル対策の研修を実施し、サルの生態、有効な追い払いや侵入防止柵設置法等を習得し、集落での対策の向上を図った（サル対策研修会：延べ 15 回実施）。

サル対策研修会

〇有害獣捕獲

令和３年度、地元住民および有害鳥獣捕獲従事者を対象に、箱わなでのサルの捕獲の研修会を実施した。大人のメスザルを駆除すると、群れが分裂する可能性があるため、オスザルを選択的に捕獲していく等の方針を確認した。

〇鳥獣害対策の補助制度の創設

令和２年度に、町が鳥獣害対策に必要なものを支援する補助制度（鳥獣害対策にかかる研修や啓発、ロケット花火やエアガン等の追い払い用の資材、放任果樹の除去等）を創設した。その結果、集落で補助金を活用し、サル対策をはじめとした鳥獣害対策に活用している（令和２年度～、延べ 12 集落で活用）。

取組の成果

・サルの行動圏が把握できたことにより、サル対策の際の有効な基礎データとなった。
・テレメトリ調査を住民が実施し、ＳＮＳで集落内や集落間がつながることで、サルの動きを情報共有することが可能となった。その結果、住民のサル対策に対する意識が強くなり、地域住民が協力してサル対策（追い払い等）を行うようになった。
・集落点検を通じて、サルを誘引している原因を把握したことで、秋起こし等の対策をするようになった。
・住民による追払い、誘引物除去、侵入防止柵の整備などが徐々に広まってきており、住民主体によるサル対策が実施できるようになった。

集落の意見

・サルの行動圏調査、集落点検、研修会等により、住民自らサルに対する管理意識が醸成された。今後、地域と行政が一体となってサルの追い払い活動等を継続して実施できる体制づくりが必要である。
・最近現れるサル群れは、昨年や一昨年現れたサル群れより、集落周辺に現れる頻度が減った気がする。昨年や一昨年まで現れたサル群れのテレメトリ反応がなくなっており、サル群れが変わった可能性がある。

今後の課題・取組

・H30 年のサル行動圏調査に対して、現在の行動圏がどのように変わっているのか調査する。
・各集落と町が連携し、追払い、防除、捕獲体制の強化を継続し、サル対策を浸透させる。また、志比北・鳴鹿山鹿地区を先進事例として、他地域にも普及拡大を図っていく。
・県や近隣市町と情報交換を行い、連携してサル対策を講じていく。